

I 御言葉の文脈の大切さ。先行する神の恵み。

本日の御言葉は、

「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を尽くし、愛をもって互いに忍び合い、平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい」：2～3に続いている。

私達に、一致を「生み出しなさい」とは命じられていない。それは人間には無理。

それ故に、主を信じる私たちの心に内住されている御霊なる神が、既に与えられている教会の一致を作りなさいではなく「保ちなさい」と命じられている。

と同時に、教会の一致を「保つ」為に、私達の分を神は与えられた。

教会の私達は、まだ完全ではなく、罪、欠点、弱さ、違いがあるので、お互い、謙遜、寛容、忍耐がいつも必要とされる。それ故に「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を尽くし、愛をもって互いに忍び合い、平和（主の十字架の血で生み出された恵み、御霊の実）のきずなで結ばれて」とある。

「バプテスマは一つ」とは、世界中のバプテスマ、洗礼の聖なる儀式の恵みは、一つ。

それを深く覚え感謝する事は、御霊の一致を「保つ」ことにおいて、とても大切な事。

II 「バプテスマは一つ」とは、バプテスマ、洗礼の方法、浸礼、滴礼、場所、水の温度、水のきれいさ、誰が授けたか等とは、一切、関係ない。安心していただきたい。

III 「バプテスマは一つ」の真の意味＝「バプテスマ、洗礼が、象徴し、意味している恵みは一つ」。

1. バプテスマ、洗礼という儀式が、意義深いものとなる為には、この聖なる儀式に先行している三位一体の神の恵みを信じ知り続けることである。

①私達への父なる神の大きな愛と選び。

②私達の為の主イエスの十字架と復活の恵みによる罪の赦し、永遠の命。

③聖霊なる神の私達への内住、罪と十字架の意味を教え、主を信じる信仰告白を与え、主と霊的に結合させ、神とお互いの交わりを生み出して下さる恵み。

2. バプテスマ、洗礼が象徴している恵み。

①多くの罪を洗い流すこと、罪の赦しを表す。

②父と子と聖霊なる神との交わりの回復。「あなたがたは行って（関係作りをして）、あらゆる国の人々を弟子（自分の罪を悔い改め主にどこまでもついて行く弟子。弟子の集まりである教会を建て上げる）としなさい。そして、父、子、聖霊の御名（単数。三位一体を示す）によって（原語：「の中へ」。父と子と聖霊の互いに愛し合う交わりに迎えられ、浸される）バプテスマ（原語：水に浸す＝父と子と、聖霊の交わりに浸される恵みを示す。体を洗う＝主の十字架の血ですべての罪が洗いよめられた恵みを示す）を受け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように（頭の知識だけでなく、神の恵みに感謝し聖霊の力での実践。守るとますます恵みが分かる）、彼らを教えなさい（洗礼を受けて終わりではなく、洗礼後が大切。礼拝メッセージや聖書通読等で主の御言葉に教えられ続ける事が主の弟子として成長する秘訣）。」マタイ28：19、20。

素晴らしい励ましが続く→「見よ。わたしは、世の終わりまで（世の終わりには、主が、この世に

来られるので、その後も永遠に私たちと共にいて下さる) いつも、あなたがたとともにいます」 28：20。

③「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです」ガラテヤ3：27。人につくのではなく、「キリストにつく」時、教会に真の一致が生まれる。主を間に置く時、お互いの距離も近くなり、健全な一致（同化ではなく、神が与えられた違いを尊重し合い、調和して行く一致）を保てる。バプテスマは、キリストと霊的に結ばれ、キリストの支配、領域、影響下に私達が入られることを表し、また意味する。

「神は、私たちを暗やみの圧政から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました」コロサイ1：13。

私達は、今や、新しい国、新しい支配の中に、また完全に新しい力の下にいる。キリストを告白し、バプテスマを受ける時、私たち自身を主にささげ、キリストが私達の主であり、主人である事を公に言い表す。

④「私たちはみな…一つのからだ（キリストのからだ=教会につながる）となるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです」Iコリント12：13。

私達は主を信じる信仰、神が主の十字架で私達の罪を罰せられ、その恵みで私達の罪が赦され、キリストの義（洗礼着が示すもの）が私達に着せられるという信仰があるだけではなく、さらに私達は、主を信じ、聖霊によるバプテスマを受け、キリストのからだである教会に連なる者とされた。主を信じる私達はみな、キリストに結び合され、キリストに着く者とされ、キリストのからだ、つまり教会の一員とされた。それ故に、バプテスマ、洗礼を受ける事により教会員となる。

Ⅲ 洗礼や転入により教会に所属する恵み。神の家族となる恵み！

1. 主が満ち満ちておられる礼拝で、共に素晴らしい神を賛美し、説教者だけではなく、皆の祈り支えの結晶として語られる礼拝説教の御言葉で毎週、恵みを受け養われる。

2. 私達は、一人では弱い。神はその事をご存知で教会を与えられた。消えそうな一本の薪も集められると、また燃え上がるように、私達も共に集まり、神を礼拝し、主を中心に交わり、御言葉を分かち合い、祈り合う時、心が強められる、支えられる（神を中心に交わる事と、一人、神の前に静まる事は、対立する事ではなく、相互作用がある。神は、両方を大切にするように導かれる）。「いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日（主の再臨の日）が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか」ヘブル10：25。

「互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい（御言葉の分かち合い、感謝、祈り合い）」Iテサロニケ5：11。

「互いのために祈りなさい…祈りは働くと、大きな力があります」ヤコブ5：16。本当です！